

2024年（令和六年） 5月31日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週（5月23日～29日）の国際石油市場は、70ドル台後半で不安定な動きを示した。米国のNYMEX原油先物市場は、米国の早期利下げ観測が後退する中、23日約3か月ぶりの安値76.87ドルで始まったが、6月2日開催予定のOPECプラスのWEB会合での追加減産観測もあり、為替市場や株式市場の影響を受け、値上がり、値下がりとも刻みに変動した。連休明け28日には79.83ドルを付けたが、29日は反落の79.23ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（7月渡し）も、前週（5月16日～22日）83.50～84.90ドルの範囲で推移したが、当週は、5月23日82.90ドル、24日83.60ドル、27日83.50ドル、28日84.90ドル、29日84.80ドルと推移した。

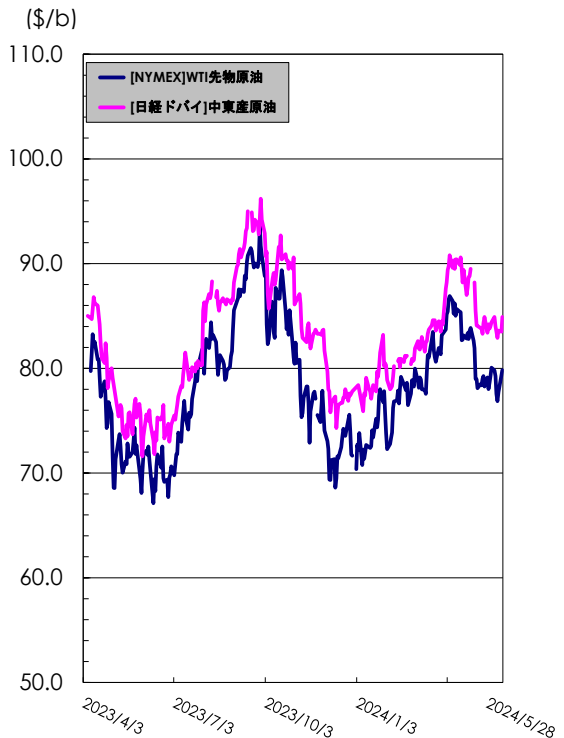
対ドル為替レート（TTM）は前週（5月16日～22日）153.94～156.49円の範囲で推移したが、当週は、5月23日156.92円、24日157.16円、27日156.87円、28日156.94円、29日157.40円となった。

財務省が5月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）による

と、5月上旬の原油輸入平均CIF価格86,375円で前旬比2,992円高、ドル建て88.72ドルで前旬比2.00ドル高、為替レートは1ドル/154.76円。

そのような中で、5月27日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円高、軽油も同0.2円高、灯油は横ばい（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は175.0円となった。5月30日～6月5日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は25.7円（補助金がない場合の次週予想価格200.5円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は15.5円）となった。

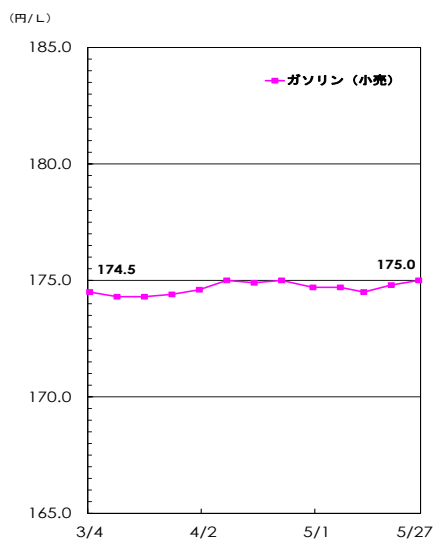
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/19 ~ 5/25	2,452 ▼ -19	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	68.2 ▼ -0.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/25	9,834 ▼ -51	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	5/27	83.50 ▼ -1.40	▲ 6.9
	WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/28	79.83 ▲ 0.03	▲ 10.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月上旬	88.72 ▲ 2.00	▲ 2.27
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	86,375 ▲ 2,992	▲ 12,765
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	154.76 ▼ -1.89	▼ -19.39
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/27	157.87 ▼ -0.96	▼ -16.10



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/19 ~ 5/25	790 ▲ 10	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	680 ▼ -34	▼ -
	輸出	"	25 ▼ -89	▼ -
	在庫	5/25	1,832 ▲ 86	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/21 ~ 5/27	83.0 ➡ 0.0	▲ 10.0
		(TOCOM/中部) 5/27	80.0 ➡ 0.0	▲ 6.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/27	175.0 ▲ 0.2	▲ 6.6

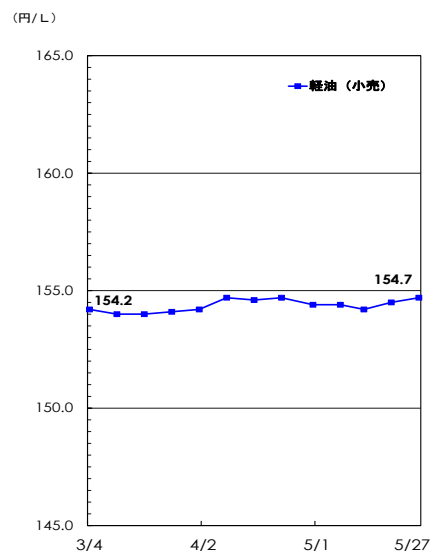
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

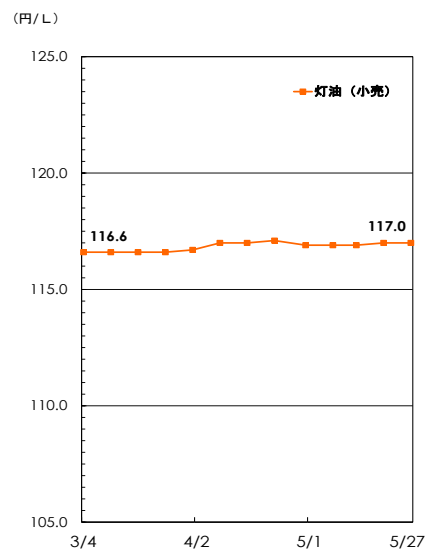
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/19 ~ 5/25	636 ▲ 45	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	510 ▼ -128	▼ -
	輸出	"	125 ▲ 79	▼ -
	在庫	5/25	1,485 ▲ 2	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/21 ~ 5/27	83.5 ▼ -0.1	▲ 6.0
		(TOCOM/中部) 5/27	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/27	154.7 ▲ 0.2	▲ 6.3

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/19 ~ 5/25	157 ▼ -16	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	-29 ▼ -101	▼ -
	輸出	"	0 ▼ -32	➡ -
	在庫	5/25	1,586 ▲ 186	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/21 ~ 5/27	81.5 ➡ 0.0	▲ 6.5
		(TOCOM/中部) 5/27	82.0 ➡ 0.0	▲ 7.2
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/27	117.0 ➡ 0.0	▲ 5.9



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(5/16~5/22)のNYMEX・WTI先物市場は77.57~80.06ドルの範囲で推移した。

当週、23日は、この日発表の米国の製造業購買担当者景況指数(PMI)が予想を上回る堅調ぶりで、早期利下げ観測が後退する中、米国株安によるリスク回避姿勢が波及する形で、続落し、2月下旬以来、約3か月ぶりの安値を記録した。7月物終値は、前日比0.70ドル安の76.87ドル。

週末24日は、前日安値の反動の買いに加えて、週末3連休からのドライブシーズン入りに伴うガソリン需要期待、2日のOPECプラスのWEB会議での追加減産維持観測等から、反発した。7月物終値は、同0.85ドル高の77.72ドル。

27日は、メモリアルデーの休日につき、休場。

連休明け28日は、ひき続き、米国のガソリン需要期入りに伴う増加期待OPECプラスの追加減産継続観測、為替市場のドル安・ユーロ高に伴う先物原油の割安感、先週の安値に伴う安値拾いの買いなどから、続伸した。7月物終値は、同2.11ドル高の79.83ドル。

29日は、米国FRB高官の相次ぐ利下げ慎重発言の中、利下げ時期を巡る不透明感が高まり、需要増加期待に水が差された形で、3営業日ぶりに反落した。7月物終値は、同0.60ドル安の79.23ドル。

2 海外/米国石油市場

5月24日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、3連休につき30日発表の予定。市場予想は、原油が前週比200万バレル減、ガソリンは同50万バレル減。

EIAによると、5月27日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.7セント安の1ガロン3.577ドル(148.4円/ℓ)と5週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.1セント安の1ガロン3.758ドル(156.9円/ℓ)と7週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、5月24日時点で、前週比横ばいの497基と2週ぶりに増加は止まった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年5月19日~5月25日に休止したトッパー能力は66.2万バレル/日で、前週に対して3.8万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は245.2万klと、前週に比べ1.9万kl減少。前年に対しては21.8万klの増加。トッパー稼働率は68.2%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては7.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.3%増、ジェット/21.8%増、灯油/9.5%減、軽油/7.6%増、A重油/10.3%減、C重油/7.1%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は12.5万kl(前週比7.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてA重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は68.0万kl(対前週4.8%減)と2週連続で減少した。ジェット3.7万kl(対前週65.2%減)、灯油-2.9万kl(対前週140.1%減)、軽油51.0万kl(対前週20.1%減)、A重油16.8万kl(対前週2.7%増)、C重油13.3万kl(対前週7.6%増)。

(単位:千L)

	今週 (5/19 ~ 5/25)	前週 (5/12 ~ 5/18)	前週比
ガソリン	680	714	▼ -34 (-5%)
ジェット燃料	37	106	▼ -69 (-65%)
灯油	-29	72	▼ -101 (-140%)
軽油	510	638	▼ -128 (-20%)
A重油	168	164	▲ 4 (2%)
C重油	133	124	▲ 9 (7%)
合計	1,499	1,818	▼ -319 (-18%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

5月25日時点の在庫はA重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはC重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは183.2万kl、前週差8.6万kl増。前年に対しては9.3万kl多い。

灯油は158.6万kl、前週差18.6万kl増。前年に対しては19.6万kl多い。

軽油は148.5万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては15.3万kl多い。

A重油は74.2万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては2.9万kl多い。

C重油は173.3万kl、前週差7.6万kl減。前年に対しては18.6万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (5/25)	前週 (5/18)	前週比	
ガソリン	1,832	1,746	▲ 86	(5%)
ジェット燃料	807	745	▲ 62	(8%)
灯油	1,586	1,400	▲ 186	(13%)
軽油	1,485	1,483	▲ 2	(0%)
A重油	742	744	▼ -2	(-0%)
C重油	1,733	1,809	▼ -76	(-4%)
合計	8,185	7,927	▲ 258	(3.3%)

5 国内/元売会社製品卸価格

5月21日～27日のドル建て中東原油価格は値下がりしたが、為替レートは円安で、円建て輸入原油価格はほぼ横ばいだった。元売会社の卸価格建値は横ばいになったものと見られる。上記コストに、補助金を考慮すると、5/30～6/5の実質卸価格はわずかに値下げとなった模様。

6 国内/製品小売価格

5月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値上がりの175.0円、軽油も同0.2円値上がりの154.7円、灯油は18%ベースで同横ばいの2,106円(1%ベースでは横ばいの117.0円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は2週ぶりに値上がり止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが22都道府県、横ばいは7県、値下がりが18府県だった。全国最安値は岩手県の167.9円、その次は岡山県の169.7円であった。他方、最高値は長野県の184.6円。最も値上がりしたのは北海道(同2.0円高)、最も値下がりは愛知県(同1.9円安)だった。

次回調査時(6/3)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/27)	前週 (5/20)	前週比	直近高値
レギュラー	175.0	174.8	▲ 0.2	23/9/4 186.5
灯油	117.0	117.0	▶ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.7	154.5	▲ 0.2	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第9号) の公表は、6/7 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。